

キュービクモデルによる市町村合併後の地域の景観解析

—岩手県一関市東山町を対象として—

岩手大学 学生会員 ○佐藤 知美 岩手大学 フェロー 安藤 昭
 岩手大学 学生会員 田村 麻帆 岩手大学 正会員 赤谷 隆一
 岩手大学 正会員 南 正昭

1. はじめに

近年、住民の日常生活範囲の広域化や地方分権の推進、さらには少子高齢化の進展などを背景に市町村合併が多く進められている。市町村合併により、中心都市のみならず周辺町村も、広域的視点に立った道路や公共施設の整備、土地利用、地域の個性を活かしたゾーニングなど、まちづくりをより効果的に実施できるようになると考えられる。岩手県の南部位置する東山町も、平成17年9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、室根村、川崎村との合併により新しい「一関市」となった。今後、以前は7市町村に分かれていた自治体が一体となり、一つの市としてまちづくりを進めていくことになる。

本研究では、岩手県内でも有数の観光地としてあげられる猊鼻渓を有する東山町について、景観イメージ分析の基礎的資料とするためのアンケート調査を行い、定住者・来訪者・転出者の3主体での認識の違いを把握することを目的とする。

2. 研究対象地域の概要

平成17年9月20日、岩手県南部に位置する一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村による大型合併があり、新しい「一関市」が生まれた。新しい「一関市」は、人口は125,818人で県内第3位、面積は約1,133km²で県内第1位の市となった。(図-1)

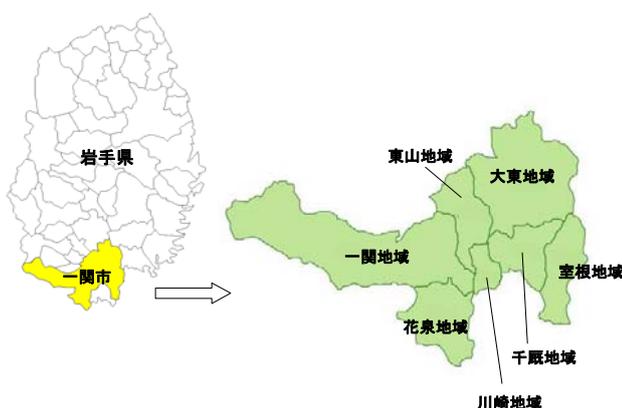


図-1 一関市の位置

一関市東山町は、総面積87.72km²、豊富な石灰石や清流砂鉄川、雄大な東稲山など、豊かな自然環境に恵まれた町である。人口は約8000人で、合併後の一関市全体の約6%に相当する。

史蹟名勝天然記念物に指定されている猊鼻渓には、年間20万人を超える観光客が訪れ、平泉等岩手県南部の観光地と結びついた周遊観光コースの拠点となっている。東山町全体の観光客入込数は

261,937人(平成17年)で、合併した7市町村のなかでは、一関市に次いで第2位である。しかし、東山町には東山和紙をはじめとする伝統工芸品、宮沢賢治ゆかりの旧東北砕石場跡や菅公夫人の墓などの史跡や歴史文化財など、観光面でさらに活用すべき低利用・未利用の資源も存在している。

3. 調査の概要

(1)調査対象

本調査は、定住者・来訪者・転出者の3主体を対象とする。それぞれの定義を以下に示す。

定住者：東山町を現在暮らしの場とする人

来訪者：東山町を訪れたことのある、東山町以外の一関市内に暮らしている人

転出者：以前東山町で暮らしたことがあり、現在は一関市内の他地域で暮らしている人

(2)アンケート実施手法

調査票は、直接訪問して配布(不在の場合はポストイング)、郵送にて回収した。調査は平成18年12月13日から平成19年1月23日に行った。

(3)回収した調査票数

東山町に1000票、東山町以外の一関市内に1500票配布し、定住者83票、転出者82票の有効回答数を得た。調査票配布時、転出者に該当する方がいないかを尋ねるなどしたが、転出者からの回答を得ることができなかった。よって今回は、定住者と来訪者の2主体の比較をする。表-1に、回収した調査票の数を住所別に示す。

表-1 住所別調査票数

主体	定住者			来訪者					
	東山			一関	大東	千厩	花泉	川崎	室根
住所	長坂	松川	田河津						
調査票配布数	700	200	100	500	200	200	200	200	200
回収数	男	22	11	3	6	5	11	1	9
	女	31	10	6	14	4	7	4	10
	計	53	21	9	20	9	18	5	19

4. 調査結果および考察

「東山町をイメージしたとき心に鮮やかに思い浮かぶもの」としてあげられたイメージ再生要素の再生量と1人当たりの平均再生量を表-2に示す。

表-2 イメージ再生要素の総再生量と1人当たりの平均再生量

被験者	総再生量	平均再生量
定住者	849(229種)	10.23
来訪者	509(155種)	6.21

イメージ再生要素のうち、再生率6.25パーセント以上の順位表を表-3(定住者)、表-4(来訪者)に示す。

表-3 言語記述法調査結果(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	狛鼻溪	78	93.98
2	唐梅館絵巻	53	63.86
3	幽玄洞	43	51.81
4	砂鉄川	34	40.96
5	菅公夫人の墓	33	39.76
6	磐井清水若水送り	29	34.94
7	宮沢賢治	28	33.73
7	東福山	28	33.73
9	石灰	26	31.33
10	太陽と風の家	20	24.10
11	東山和紙	18	21.69
11	紙すき	18	21.69
13	唐梅館総合公園	17	20.48
14	やまゆり	11	13.25
15	舟下り	10	12.05
15	磐井清水	10	12.05
15	東館部屋合宿	10	12.05
15	水書	10	12.05
15	大船渡線	10	12.05
20	石灰工場	9	10.84
20	子安観音	9	10.84
22	唐梅館	8	9.64
22	東山球場	8	9.64
22	大清水	8	9.64
22	東北報知マラソン東山大会	8	9.64
26	石と賢治のミュージアム	7	8.43
26	鮎	7	8.43
26	硯	7	8.43
26	神楽	7	8.43
26	青柳文蔵	7	8.43
31	セメント工場	6	7.23
31	鹿踊り	6	7.23

表-4 言語記述法調査結果(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	狛鼻溪	71	86.59
2	幽玄洞	30	36.59
3	石灰	23	28.05
3	舟下り	23	28.05
5	宮沢賢治	20	24.39
6	唐梅館絵巻	16	19.51
7	東山和紙	15	18.29
7	紙すき	15	18.29
9	磐井清水若水送り	14	17.07
9	砂鉄川	14	17.07
11	菅公夫人の墓	13	15.85
12	石灰工場	10	12.20
12	東館部屋合宿	10	12.20
14	水書	9	10.98
15	東山球場	8	9.76
16	唐梅館	7	8.54
16	セメント工場	7	8.54
16	東福山	7	8.54
16	硯	7	8.54
20	開発セメント	6	7.32
20	鮎	6	7.32

「新しく作りたい施設」としてあげられた要素のうち再生量2以上の順位表を表-11(定住者)、表-12(来訪者)に示す。

表-11 新しく作りたい施設(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	図書館	20	24.10
2	温泉	14	16.87
3	総合病院	9	10.84
4	老人介護施設	7	8.43
6	眼科	3	3.61
6	親水公園	3	3.61
6	映画館	3	3.61
9	公民館	2	2.41
9	多目的ホール	2	2.41
9	衣料品店	2	2.41
9	店	2	2.41
9	文化会館	2	2.41
9	喫茶店	2	2.41
9	スケート場	2	2.41
9	ホテル	2	2.41
9	デパート	2	2.41
9	高校	2	2.41
9	バリアフリーの駅	2	2.41
9	健康ランド	2	2.41
9	地区ごとの公園	2	2.41
9	葬祭場	2	2.41
9	旅館	2	2.41
9	レストラン	2	2.41

表-12 新しく作りたい施設(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	駐車場	4	4.88
2	温泉	3	3.66
2	宿泊施設	3	3.66
2	スーパー	3	3.66
5	遊園地	2	2.44
5	狛鼻溪のさらに奥	2	2.44

ここで、対象地域のコア(核)になると考えられる再生率25%以上の要素をコア・エレメントと呼ぶものとする。

定住者、来訪者ともに「狛鼻溪(定住者93.98%:再生順位1位、来訪者86.59%:再生順位1位)」「幽玄洞(住民51.81%:再生順位3位、来訪者36.59%:再生順位2位)」「石灰(住民31.33%:再生順位9位、来訪者28.05%:再生順位3位)」がコア・エレメントとしてあげられた。「太陽と風の家」、「子安観音」、「神楽」、「青柳文蔵」、「鹿踊り」などの文化的要素は住民固有のものになっている。

「好きなところ」としてあげられた要素のうち再生量2以上の順位表を表-5(定住者)、表-6(来訪者)に示す。

表-5 好きなところ(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	狛鼻溪	36	43.37
2	唐梅館総合公園	18	21.69
3	唐梅館	12	14.46
4	砂鉄川	8	9.64
5	東福山	7	8.43
6	自然が多い	4	4.82
7	静かなところ	3	3.61
7	人柄	3	3.61
7	宗松寺杉林	3	3.61
7	自然	3	3.61
11	自宅	2	2.41
11	体育施設	2	2.41
11	山	2	2.41
11	人情	2	2.41

表-6 好きなところ(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	狛鼻溪	44	53.66
2	幽玄洞	6	7.32
3	舟下り	4	4.88
3	唐梅館総合公園	4	4.88
3	東福山	4	4.88
6	唐梅館	2	2.44
6	砂鉄川	2	2.44
6	狛鼻追分	2	2.44

「嫌いなところ」としてあげられた要素のうち再生量2以上の順位表を表-7(定住者)、表-8(来訪者)に示す。

表-7 嫌いなところ(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	水書	4	4.82
2	汚れた道路	3	3.61
2	砂鉄川のコンクリート護岸	3	3.61
2	道路沿いのゴミ	3	3.61
5	活気が無い	2	2.41
5	街灯が少ない	2	2.41
5	ゴミの不法投棄	2	2.41
5	石灰工場	2	2.41
5	長坂商店街	2	2.41
5	トラック交通量が多い	2	2.41
5	川のゴミ	2	2.41
5	道路が狭い	2	2.41

表-8 嫌いなところ(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	切り崩された山	5	6.10
2	交通の便が悪い	2	2.44
2	水書	2	2.44
2	汚れた道路	2	2.44
2	カーブの多い道路	2	2.44
2	石灰工場	2	2.44

「改善したいところ」としてあげられた要素のうち再生量2以上の順位表を表-9(定住者)、表-10(来訪者)に示す。

表-9 改善したいところ(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	道路	13	15.66
2	無人駅	4	4.82
3	水書	3	3.61
4	人工的な河川敷	2	2.41
4	長坂商店街	2	2.41
4	観光地の看板	2	2.41
4	排水処理設備	2	2.41
4	環境への意識	2	2.41

表-10 改善したいところ(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	道路	4	4.88
2	活気の無さ	2	2.44
2	菅公夫人の墓の案内表示	2	2.44
2	観光案内	2	2.44
2	無料休憩所	2	2.44
2	観光客の接待	2	2.44
2	商店街	2	2.44

「知っている伝統工芸」としてあげられた要素の順位表を表-13(住民)、表-14(来訪者)に示す。

表-13 知っている伝統工芸(定住者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	東山和紙	68	81.93
2	紫雲石硯	51	61.45
3	大理石工芸	21	25.30
4	東山こけし	13	15.66
5	お面	3	3.61
6	紙布織り	5	6.02
7	メンコ	2	2.41
8	ヤマユリの香水	1	1.20
8	木工品	1	1.20
8	槍の皮の笠	1	1.20
総再生量		166	
平均再生量		2.00	

表-14 知っている伝統工芸(来訪者)

順位	再生要素	再生量	再生率(%)
1	東山和紙	47	57.32
2	紫雲石硯	22	26.83
3	大理石工芸	4	4.88
4	漆工芸	1	1.22
4	三角笠	1	1.22
4	狛鼻溪のガラス置物	1	1.22
4	ガラスのコップ	1	1.22
4	和紙の作品	1	1.22
4	染めもの	1	1.22
4	刀鍛冶	1	1.22
総再生量		80	
平均再生量		0.98	

「合併前と合併後で変わったこと(定住者のみ、自由記述)としては、以下のような回答が得られた。

- ・体育館など他地域の施設を利用しやすくなった。
- ・行事に町民以外の人参加するようになった。
- ・税金が高くなった。
- ・行事が縮小された。
- ・広報がつまらなくなった。

「観光に関してもっと欲しい必要だと思う情報(来訪者のみ、自由記述)としては、以下のような回答が得られた。

- ・交通について
- ・狛鼻溪以外の観光地について
- ・案内標識、看板、パンフレット
- ・海外への発信

5. まとめ

以上のように、定住者と来訪者では東山町のイメージが大きく異なるということが判明した。イメージ再生要素としては、多くの文化的要素が定住者固有のものになっている。また、来訪者が好きなところは、狛鼻溪に集中している。嫌いなところと改善したいところの再生量は、両主体ともに少なかったが、道路についての要素が目立った。新しく作りたい施設としては、図書館や総合病院など日常生活に関わる要素が、定住者固有の要素になっている。

合併後の一関市民全体では、東山町は狛鼻溪のみのイメージが強くなってしまい、本当の東山町の良さが見えなくなってしまう。定住者、来訪者、そして今回は調査できなかった転出者のイメージも重ね合わせ、個性豊かなまちづくりを行うことが必要だと考えられる。